

令和3年度 関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務
業務実施報告書

【貴団体概要】

団体名	一般社団法人熱意ある地方創生ベンチャー連合
事業名	ベンチャー企業と地域との協業事業「ワーケーション×スキルアップ」プログラムの創出
担当者名	土井隆
共同提案団体	1. 長島未来企画合同会社 2. 一般財団法人たらぎまちづくり推進機構
実施地域	1. 鹿児島県出水郡長島町 2. 熊本県球磨郡多良木町

1 事業概要・主な成果

1.1 事業概要

当団体と、地域プロジェクトに取り組む地域商社と会員企業とが協力して、ベンチャー企業の経営者・社員が地域でスキルアップ（水産業への理解・免許取得など）を行うプログラムを作り、継続した関係をつくっていく。

(1) ポストコロナの働き方

新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでの経済成長で培われたオフィスでの就労や満員電車での通勤などの「密」を前提とした社会構造の継続が困難になった。このためこれまでの「当たり前」を前提としない、新しい社会構造の中で持続的に生産性を高めていくスタイルの提案を行う。

(2) ベンチャー企業の地域とのコ・クリエーション

熱意ある地方創生ベンチャー連合に加盟する64社（2022年2月現在）のベンチャー企業が、それぞれのサービスが地域の課題解決につながるようなソリューションを持っている。その企業の経営者・社員が地域との関係を強固にする機会を提供することで、「企業移住」「コ・クリエーション（共創）」を効率的かつ効果的に起こす契機とする。

(3) 互いの学びをデザインする

ワーケーションや体験移住では、地域と体験をする人の関係は受益者と供給者の関係になりがちであるが、地域の課題を知り、課題に取り組むためのスキル（狩猟免許・船舶免許など）を、訪れる場所で取得する設計を行うことで、地域と体験をする人のコ・クリエーション（共創）を起こすプログラムを実施する。また、企業側からも地域にむけたワークショップや体験会を通じ、地域と企業が相互に学びの場を作りそれぞれの強みを強化してスキルアップを図ることで、一過性の事業に終わらない持続的な取り組みとする。

1.2 主な成果

本事業を通じて、株式会社ネクイノ・楽天グループ株式会社・NTTアド・Aicomiなど多くの都市部の企業およびベンチャー企業が地域の活動に実際に触れ合うことができ、協業事業のキッカケを作ることができた。特に、企業の経営層、または、地域連携責任者などの決定権をもった方がプログラムに興味を示し、参加していただくことができた。

(1) 参加者数

オンライン説明会参加人数：349名（8月2日実績）

達成率：174%達成（目標：200名）

プログラム参加者数：14名（長島町：6名、多良木町：8名）

達成率：140%達成（目標：各地域5、計10名）

(2) 継続するプロジェクトの数

2プロジェクトが継続検討中（2022年2月現在）

ふるさと納税の返礼品の検討（長島町）、ジビエの取組の紹介ウェブサイトへの掲載（多良木町）の取組について現在調整中。1プロジェクトの継続を目標としている。

(3) 参加者満足度

8.1（目標8以上）（10段階）達成

「今回のワーケーションツアーを同僚、友人等に薦めたいと思いますか？」という設問で、回答を募集。14名の参加者のうち、10名が回答（回答率：71%）

本事業への参加者の満足度が、継続的な関係継続になると考え、プログラム参加者の満足度調査を行い満足度8以上（10段階評価）を目標としている。

2 モデル事業実施地域の概要と課題

2.1 事業実施地域の概要・課題

(1) 鹿児島県長島町



① テーマ

水産資源と海の環境

② 地域の概要

長島町（世帯数：4,129 世帯、人口：10,431 人）は鹿児島県北西部に位置する町で、長島本島・伊唐島・諸浦島など八代海に浮かぶ大小 23 の島々によって構成されていることから「長島大陸」と呼ばれている。産業は農業と漁業が中心で、馬鈴薯の収穫が盛んなだけでなく、養殖ブリの生産量日本一を誇る。

③ 解決したい地域の課題

(ア) 人口減少と、水産業・農業の担い手不足

長島町は町内に高校がなく、若者の流出や出生数の減少も続き、かつては“消滅可能性都市”の 1 つともいわれたが、町の基幹産業である水産業、農業、醸造業の業績が堅調に推移している結果、人口減少のスピードは遅くなっている。しかし、水産業・農業において、経営状況や後継ぎ問題などから、廃業をしてしまう事業者が多く存在する。水産業のなかでも特に養殖業は一度やめてしまうと再開することが難しい。そのなかで、漁業体験や魚釣り体験ツアー等のイベントを開催し、町外との新たなつながりを作るとともに、5G や IoT を活用した水産業・農業の活性化を図ることで地域課題の解決に導く機運がある。

(2) 熊本県多良木町



- ① テーマ
鳥獣被害

② 地域の概要

多良木町（世帯数：3,791世帯、人口：9,509人）は熊本県南部、球磨郡の東部にあり、中央部は平坦地で、南部と北部は九州山脈の支脈を形成する森林に覆われている。面積は165.86平方キロメートルで、面積の約80パーセントは山林原野であり、水上村北部に源をなす球磨川が水量豊富に八代海に注ぎ、水利の便に恵まれ農林業が発達している。土地は肥沃で温暖多湿の気候にも恵まれ、良質米の他、メロン等の果樹、葉タバコが栽培されるとともに、アカマツ、ヒノキ、スギなどの豊富な森林資源により椎茸等の林産物も数多く産出されている。また、自動車関連部品や軽電機、製材、木製品、焼酎、食料品などの製造加工工場がある。

③ 解決したい地域の課題

(ア) 人口減少と、地域内外の交流促進

多良木町の人口は、高度経済成長期における大幅な人口流出による減少期を経て、漸減傾向が続いている。1995（平成7）年には老年人口が年少人口を上回り、少子化・高齢化の進展とともに、人口減少に伴う生産年齢人口の減少が続いている。令和2年に一般財団法人「たらぎまちづくり推進機構」が発足し、官民一体となって地域経済の活性化や地域内外の交流を促進する取組みを企画・実行し始めており、さらなる展開が期待できる。

(イ) 鳥獣被害対策と担い手不足、ジビエ料理の利活用推進

多良木町には全国でも珍しいイノシシの「成体市場」があり、捕獲されたイノシシがセリにかけられるなど、鳥獣対策が町民の生活に密着していると考えられる。しかし、猟友会会員の高齢化や技術を継承する担い手不足など、会員確保が大きな問題となっている。熊本県内の若手農家が結成した「農家ハンター」の活動により、ICTを活用した捕獲活動が展開されているが、さらなる周知と支援が求められている。また、捕獲した鳥獣を利用したジビエ料理を展開して、狩猟文化・ジビエに特化した観光マーケティング戦略を推進し、観光客の地域内での滞在（交流人口・関係人口）の増加と、町の所得向上・雇用創出のための持続的な仕組みを構築することも迫られている。

2.2 関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン・テーマ設定

各実施地域の課題から共通して見えてくるのは、ICT産業と連携するなどデジタル変革を取り入れながら、人口減少と水産業の担い手不足、鳥獣被害の対策を組み合わせた施策が求められているという点である。この課題に対し、当団体の会員である都市部のベンチャー企業の人材とソリューションを地方に移転していくことが、本事業の目的となる。

(1) 本事業の特徴

- ① ワークーション期間中に、地域住民にむけたワークショップを企業が開催。
- ② 地域は呼びたいベンチャー企業を選んで要望を出す。
- ③ ワークーション期間中に参加者は、地域課題を学ぶと共にスキルアップを図る。
- ④ 継続的に地域を訪れるための協業事業をベンチャーと地域で構築。

※本事業が掲げる「スキル」とは、小型船舶免許や狩猟免許など。地域課題に関連した講習・検定を期間中に受けることになる。

① 小型船舶免許（鹿児島県長島町）

約5日間の講習を受けた後、海での実技を受けて、免許を取得する。長島町では東町漁協管内での受講が可能な期間を設けており、本事業ではその期間にあわせて開催する。

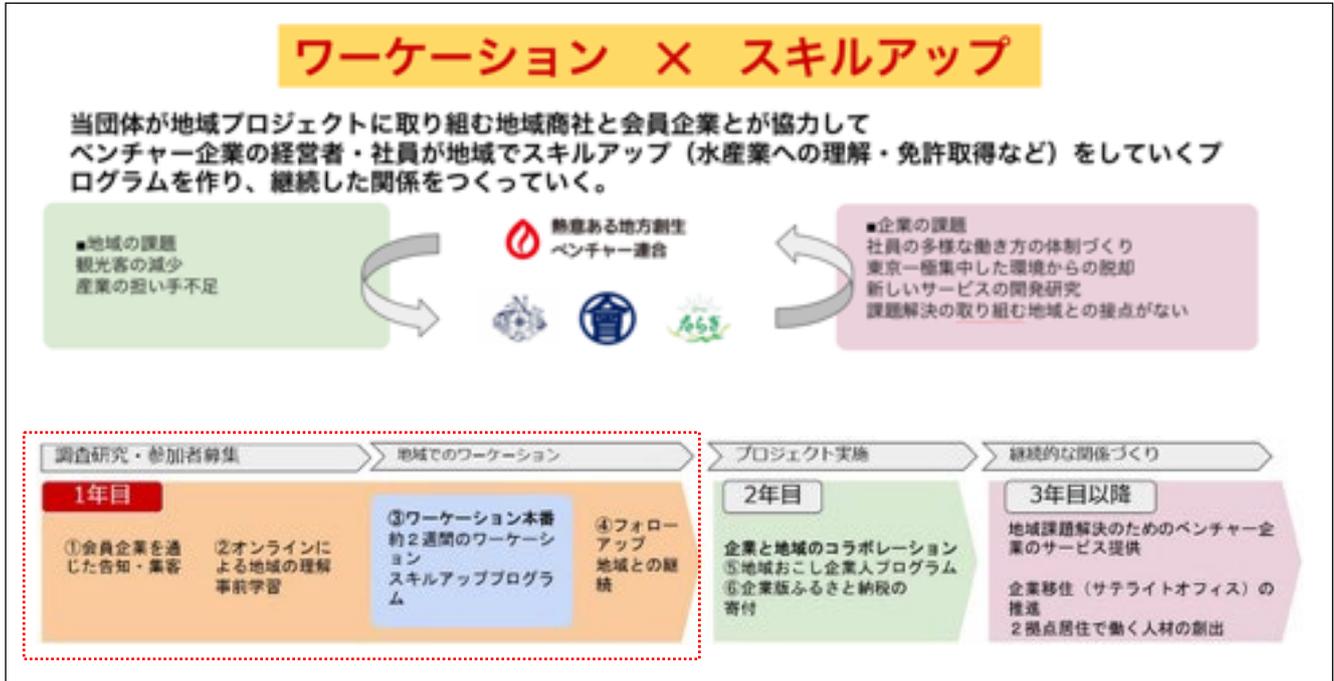
② 狩猟免許（熊本県多良木町）

猟友会の主催する初心者講習会の受講に加え、猟友会の実際の活動へ参加し直接コミュニケーションをとることで知識や経験の継承を受け、ワークショップ終了後に参加者はそれぞれの都道府県で狩猟免許を取得（狩猟免許試験は、住民票のある都道府県で受講する必要がある）する。なお、取得後は全国での猟が可能となる。

3 モデル事業の取組内容

3.1 取組みの全体像・スキーム

(1) ワークーション×スキルアップ



初年度として、①告知集客活動 ②オンライン事前学習 ③ワークーション ④フォローアップの4つの行程を行った。

① 告知集客活動



本年度のワークーションプログラムの募集を開始しました。地域の魅力や産業の現場を知りながら、その場所ならではのスキルアップを目指すワークーションの受け入れを実施いたします。本プログラムは、熊本県多良木町の一般財団法人たらぎまちづくり機構、鹿児島県島町の良島未来企画合同会社の協力の元、熱意ある地方創生ベンチャー連合が開催いたします。鹿児島県長島町では、水産業の現場を知りながら小型船舶免許の取得を目指します。熊本県多良木町では、林業・鳥獣被害について学びながら狩猟免許の取得を目指します。期間中に、ジビエバーベキューや漁師体験など様々な企画を予定しております。

当団体のホームページに特設ページを作成し、広報活動を行った。

ページ	ページビュー数	ページ別訪問数	平均ページ滞在時間	閲覧開始数	直帰率	離脱率
	1,530 全体に対する割合: 2.43% (62,936)	619 全体に対する割合: 2.44% (25,411)	00:00:45 ビューの平均: 00:00:34 (32.23%)	371 全体に対する割合: 2.62% (14,173)	2.70% ビューの平均: 0.86% (213.18%)	30.20% ビューの平均: 22.52% (34.09%)
1. /kankejinkou/	1,530(100.00%)	619(100.00%)	00:00:45	371(100.00%)	2.70%	30.20%

期間中の閲覧 PV は 1530 となった。取り組みの内容と詳細が分かりやすいように情報公開を行った。

② 事前オンライン学習

【鹿児島県長島町】



7月30日に、長島未来企画合同会社代表社員の甲斐友也氏をゲストスピーカーにして、熱意ある地方創生ベンチャー連合会員向けのオンライン説明会を開催した。またこの内容は同時にYouTubeLIVEにも配信をした。長島町の水産業の特徴やエネルギー政策、これまで地域商社が取り組んできた食を通じた交流プログラムなどを90分のセミナーで発表した。

【熊本県多良木町】



7月16日に、一般財団法人たらぎまちづくり推進機構業務執行理事 COO の梶原誠氏をゲストスピーカーにして、オンライン説明会を開催した。多良木町の地理的特徴やこめづくりの特徴、鳥獣被害やジビエに関する取り組みなどを発表した。

(ア) オンライン説明会参加者

リアルタイム視聴者は、多良木町オンライン講座 108 名。長島町オンライン講座 90 名の参加。その後のアーカイブ動画の視聴を含めると、それぞれ 248 名、280 名の合計 528 名にご視聴いただくことができた。

(イ)視聴者アンケートにおけるコメント

- ・とても勉強になりました。多良木町の取組みが他自治体の課題に活かせるかと思いました。多良木町にも機会があればぜひ伺いたいと思います。ありがとうございました
- ・情報収集しながら日々模索中でして、今回の勉強会は大変参考になりました。
- ・地域おこし協力隊間の連携がこのようなイベントを通じて今後できると面白いと感じた。

③ ワークーション・スキルアップの実施

【10月1日～6日 長島町スキルアップ×ワークーション】

長島未来企画合同会社との連携のなか、2021年10月1日より「鹿児島県長島町ワークーション×スキルアップ」を開催した。このワークーションでは、免許取得などの講習会をきっかけにその地域を訪れ、現地のプレイヤーとのやり取りを通して、地域の魅力や地域の抱える課題を知り、地域と関わるきっかけを作ることを目的とした。当日は、楽天グループ株式会社・NTTアド・LR株式会社・鹿児島相互信用金庫から、合計6名の参加があった。新型コロナウイルスの緊急事態宣言の影響などを受け、地域住民との接触を減らすなどプログラムの変更を余儀なくされたが、期間内に水産業への理解と船舶免許の取得を行った。以下、プログラムの内容をご紹介します。



■古民家DIY（10月1日、10月3日）



木の板をサイズに合わせてカットし、かんなを使い、面取りをする手法を大工から教えてもらい、実際に参加者で作業を行いました。水分を含むと木がどのように変形していくかを考えながら、かんなを当てる面を選びます。どの面にかんなを当てるかの見定めにも苦戦する参加者も。また、湿気の多い日本で水分を含んだ木材は反りが生じてくるので、そこを理解した上で、実際に木が生えている状態と同じになるように木材を配置するのが伝統的な手法だと学びました。

・板の打ち付け、着色

電動工具の基本的な使い方を学び、穴あけは電動で釘打ち・板の着色は手作業で行いました。ベテラン大工の技に参加者からは感嘆の声が上がっていました。今回ご指導いただいた大工の方は、生まれ育った地域を離れて長島町へ移り住んだ方で、地域に対する思いなども語ってくださいました。

■船舶免許取得講習会、試験（10月2日、3日）



・学科講義、実技講義、免許試験

普段耳にしない言葉や漁業の専門用語を、この機会に初めて知ったという参加者も多くいました。釣り場や養殖場にはできるだけ近づかず、止むを得ず航行する際には、波を立てないように運転するように教わるのですが、その過程で漁業の仕組みを覚える必要があり、後に海に繰り出した際に「あ！あれは〇〇漁だ！」とわかるレベルで参加者は知識をつけていました。また、漁師さんに海に連れて行っていただいた際も、船に興味津々で、船の重さや設備について尋ねる参加者もいました。漁師さんたちも船舶免許試験を懐かしんで「こんな問題が出ただろう？」と盛り上がる場面もありました。

免許取得の講義の中で、よく出る大事なポイントに免許更新のタイミングがあります。免許の有効期間は5年間ですが、満了する1年前から更新手続きが可能となります。現在住んでいる地域の近くでも受講は可能ですが、参加者からは「せっかくだから4年後にまたここに集まって免許更新したいですね！」という声があがっていました。

■瀬渡し船、引網漁体験（10月4日）



瀬渡し船で漁場まで初めて運んでもらった参加者からは、大きな船で大きな水しぶき、自分で運転した時には出せなかったスピードを体験し、歓声が上がっていました。引網漁ではたくさん入っている籠とそうでないものとあり、日によっても差があるという話を聞きました。また、想像していなかったエイなどの大きな魚が入り込んでいたり、網が破けてそこから逃げたであろう痕跡も目の当たりにしました。網が破ける一つの要因として、イルカが突進してきて引っかかって逃げようとして破けるパターンがあるそうです。破けた網をその場で応急措置をする漁師さんたちを見守りながら、いつもは可愛く思うイルカを少しだけ憎たらしく感じた参加者もいたようでした。

■ぶり養殖場見学（10月4日）



大本命！長島町のブリの養殖現場では、ちょうど餌やりの時間に到着し、養殖施設の中の大量のブリが飛び跳ねている様子にあちこちで歓声が上がりました。餌が大砲のような機械から投入されるのですが、その内容物はドッグフードのような固形のものでした。イワシの香りがするもので、食べてみようとして口に運ぶ参加者もいました。餌やり機の中に、漁師さんが液体をかけていて、お尋ねしたところ、ニンニクエキスでした。人間もですが、ニンニクを加えることで元気のいいブリになるようです。

■ 現地の食材を堪能



事前のオンラインセミナーでは、魚介類をはじめ、お肉や野菜も有名と聞いていましたが、そこに合わせる加工品として焼肉ソースやお味噌など、こだわりの商品も多数ありました。味にハマった参加者からは「遠方から取り寄せたい気持ちもあるが、現地に来ないと手に入らないというのも、特別感があっていいですね！」という声もありました。



■ 参加者アンケートより

- ・ 様々な方と、話すことで課題が見つかり、海に癒やされました。
- ・ 都会は人、モノに溢れ忙しく時間が過ぎますが、島は時間の流れがゆっくりで、デジタルデトックスができました。
- ・ 友人、知人にもこのワーケーションを勧めたいと思います。

【12月1日～8日 多良木町スキルアップ×ワークショップ】

一般財団法人たらぎまちづくり機構と連携して、ワークショップを実施した。

株式会社ネクイノ・Aicomi・テレビ東京コミュニケーション・日本ワークショップ協会などから8名の参加、それから福岡市・浜松市の職員の視察を含めたプログラムの参加があり、17名が期間中滞在した。猟友会による狩猟体験や、イノシシの競り市への参加など地域ならではの体験を盛り込んだワークショップとなった。以下内容を紹介していく。



■狩猟体験（12月2日・6日）

日中に”スキルアップ”の狩猟体験があり、地元の猟友会の方から、鳥獣被害や狩猟の話をお伺いしました。興味津々な皆さんからは、沢山の質問が飛び交いました。



実際に罾にかかった野生の鹿を見つけました。夜は、地元の「Re ビエ」さんでジビエ料理をいただきました。

■狩猟免許講座（12月3日）



3日目は午前中に各自仕事を行った後、午後に狩猟講習会がありました。免許取得のコツを伺ったり、実際の罠の使い方を教えていただいたり、興味深いお話が聞けました。多良木町の農政課による鳥獣被害の話聞き、狩猟免許の取得にむけた講義が行われました。

■SUP体験（12月4日）



球磨川をつかった観光アクティビティに挑戦しました。

■ジビエせり体験（12月5日）



まず、ジビエの競り市に行きました。日本でジビエの生体の競りが行われているのは、ここ村上精肉店さんのみとのことでした。売り手の方が車で沢山の動物を搬入するシーンから驚きです。手が次々と上がり、価格もどんどん上がっていく競りの臨場感は、非常に印象的でした。なんと参加者の方も競り市に参加することになり、猪を競り落としていました。ちなみに、今回の参加者×競りの司会者の方で雑談をしていたところ、競りのオープニングトークでその話題が取り上げられることに。この競り市を後世に残していきたい、という熱く感動するお話を伺うことができました。そして、夜はジビエBBQで盛り上がりました。鳥獣被害対策として捕獲した動物の命をありがたく頂き、色々と感じることもありました。

■雲海ヨガ（12月6日）



妙見山から、早朝は、雲海ヨガを行いました。運がよいと、雲海を見下ろしながらヨガができるということです。あいにく雲海はでませんでした。多良木ならではの体験ができました。絶景の前でジャンプも！ワーク・バケーション・スキルアップそれぞれが大変充実していたほか、参加者同士でネットワークが広がったり、ビジネスの共創の話が出たりしました。

④ フォローアップとアンケートの実施

関係人口モデル事業「多良木町ワーケーション×スキルアップ」参加者アンケート

このたびは弊センター「多良木町ワーケーション×スキルアップ」にご参加いただきありがとうございます。アンケートへのご協力をお願いいたします。なお、当アンケートは関係人口への業務報告に使用いたします。

今回のプログラムに参加しての変化を教えてください。

	そう思う	どちらかといえば、	どちらかといえば、	そう思わない
「関係人口多良木町」の	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「たらぎ財団」の	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「高野建設事業」の	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
勤務する会社での	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「熱意ある地方創生」の	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

参加者には、アンケートを取りフォローアップの体制を整えている。協力団体と協議しながら、継続事業ができるように個別に連絡を取ることにしている。また、当団体の会員全員が入るオンラインコミュニティで活動の報告をすることで、活動に広がりを見せている。

また、ワーケーション期間に参加できなかった方にむけて、プログラムを紹介する映像をそれぞれ制作した。

<https://www.youtube.com/watch?v=ranYFQ4Nf6Q/>
https://www.youtube.com/watch?v=VMrqM8gjG_U

多良木町 ワーケーション×スキルアップ (令和3年度・関係人口モデル事業)
862 回視聴・8 日前
熱意ある地方創生ベンチャー連合
地域の魅力や産業の現場を知りながら、その場所ならではのスキルアップを目指すワーケーションの受け入れを実施いたします。

長島町 ワーケーション×スキルアップ (令和3年度・関係人口モデル事業)
5701 回視聴・2 か月前
熱意ある地方創生ベンチャー連合
地域の魅力や産業の現場を知りながら、その場所ならではのスキルアップを目指すワーケーションの受け入れを実施いたします。

(2) 実施地域ごとの取組

① 鹿児島県長島町

(ア) 主要な取組

ワーケーション×船舶免許取得・水産業体験

(イ) 協業パートナー

長島未来企画合同会社

(ウ) 具体的な内容

- i) 実施会場として、空き家を活用（宿泊・食事が可能）
- ii) 船舶免許取得講習会
- iii) ブリ養殖等水産業体験実施
- iv) 海の環境保全に関する取り組みの講義

② 熊本県多良木町

① 主要な取組

ワーケーション×狩猟免許取得・ジビエせり体験

② 協業パートナー

一般財団法人たらぎまちづくり機構

③ 具体的な内容

- i) 狩猟免許取得
- ii) ハンター体験・講習会
- iii) イノシシの成体市場見学
- iv) ジビエ料理教室

3.2 期待される効果・KPI

(1) 効果

- ・地域が継続的に、ベンチャー企業の受け入れを進めていく
- ・地域とベンチャー企業が協業するプロジェクト創出を推進していく

<プロジェクトイメージ（例）>

鹿児島県長島町：ぶり養殖・漁業体験のアクティビティツアーの開発

熊本県多良木町：ジビエの加工品の商品化・通販での販売

(2) KPI

① 鹿児島県長島町

(ア) 参加者数

- i) オンライン説明会参加者数：100人
- ii) プログラム参加者数：5人

(イ) 継続するプロジェクト

ワーケーションを受け入れた地域と、企業で1つのプロジェクトを作り出す

(ウ) 参加者満足度

プログラム参加者の満足度調査を行い満足度8以上【10段階】

② 熊本県多良木町

(ア) 参加者数

i) オンライン説明会参加者数：100人

ii) プログラム参加者数：5人

(イ) 継続するプロジェクト

ワーケーションを受け入れた地域と、企業で1つのプロジェクトを作り出す

(ウ) 参加者満足度

プログラム参加者の満足度調査を行い満足度8以上【10段階】

4 事業実施に係る運営体制

4.1 事業実施体制

熱意ある地方創生ベンチャー連合

ワーケーション担当（1名）	事業の管理を行う。 関係人口の受け入れ地域との調整・ワーケーションのデザインを行う。
企業集客担当（1名）	企業のニーズをヒアリングし、本事業に参加する企業経営者・社員の募集の責任を持って行う
地域連携担当（1名）	各地域の受け入れに向けてプログラムの調整を行う
長島未来企画合同会社／たらぎまちづくり機構	各地域のビジョンと、受け入れる人材の要望のとりまとめなど地域側のニーズを伝える
プログラム開発担当（各1名・合計2名）	ワーケーションの受け入れ・プログラムの開発を行う
慶應義塾大学・そうしん研究所	

4.2 事業実施団体及び関係機関の役割

NO	名称	役割
1	熱意ある地方創生ベンチャー連合	◆事務局としての機能 （都市部ベンチャー企業のとりまとめ） ◆企業側の発信元
2	長島未来企画合同会社	◆地域での受け入れプログラムの開発 ◆鹿児島県長島町のワーケーション受け入れ
3	多良木まちづくり機構	◆地域での受け入れプログラムの開発 ◆熊本県多良木町のワーケーション受け入れ
4	慶應義塾大学	◆プログラム設計へのアドバイス
5	そうしん地域おこし研究所	◆地域変容の調査・研究

5 事業実施に係る運営体制

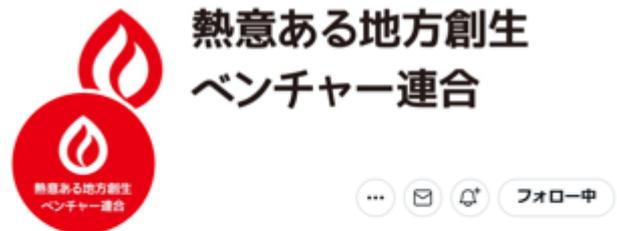
5.1 実施スケジュール

実施事項	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
1 地域との関わりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討	異地の参道 地域ニーズも収集			プログラムの日程調整・内容調整						オンラインイベント の開催（合計 2回）			当該団体ホームページSNSでの発信・掲載も 実施			長島町ワー ケーション						多良木町ワー ケーション														
2 地域との継続的な関わりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討										多良木町ワー ケーション												地域との協議の実施														
3 自立化・自主化の検討																												自治体への提案			次年度向けの案内					
4 モデル事業としての成果検証等										参加企業・参加者のアン ケート調査も実施						プログラムに参加した企業・地域の参加者の定数をヒアリング調査する																				
5 他地域への継続的な可能性の検討																									他地域へのヒアリング											
6 報告書とりまとめ																															報告書の作成 報告書公開					
7																																				
8																																				
9																																				
10																																				

当初予定していた8月でのワーケーション実施は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響をうけて、延期を余儀なくされた。

5.2 事業の広報・アプローチ

- (1) 当団体ホームページをつかった告知活動
- (2) SNS・動画広告をつかった告知
- (3) 当団体のメールマガジンによる告知



【公式】熱意ある地方創生ベンチャー連合（熱ベン）

@netsuiorjp フォローされています

イノベティブなアイデアやソリューションによって、ベンチャーや自治体との垣根をなくし、地方創生の実現を目的とする連合団体『#熱ベン』の公式アカウント (#熱イッター)👉 #地方創生 #ベンチャー

5.3 活動内容① 鹿児島県長島町ワーケーション×スキルアップ

- (1) 6月23日 事前調整のための視察活動
- (2) 7月30日 オンライン説明会
- (3) 10月1日～7日 スキルアップ×ワーケーションの実施

	9/29	30	10/1	10/2	10/3	4	5	6
	水	木	金	土	日	月	火	水
5:00								
6:00					移動			
7:00								
8:00								
9:00			DIY体験	船舶免許講習 学科	船舶免許講習 実技・学科	漁業体験ツアー		
10:00								
11:00								
12:00				食事				
13:00								
14:00	草刈り	清掃			船舶免許講習 学科	船舶免許講習 実技・学科		
15:00								
16:00								
17:00								
18:00	食事	BBQ準備		食事				
19:00			BBQ					
20:00								
21:00								
22:00								

5.4 活動内容② 多良木町ワーケーション×スキルアップ

- (1) 6月25日 事前調整のための視察活動
- (2) 7月16日 オンライン説明会
- (3) 12月1日～8日 スキルアップ×ワーケーションの実施

	1	2	3	4	5	6	7	8
	水	木	金	土	日	月	火	水
6:00						雲海ヨガ		
7:00			雲海ヨガ					
8:00			雲海観察					
9:00		狩猟体験		雲海ツアー (登山)		狩猟体験		
10:00			酒造見学					
11:00				ランチ		ビジエ競り市		
12:00								
13:00								
14:00			狩猟講習会					
15:00		鹿の解体等の 見学		SUP体験				
16:00								
17:00								
18:00								
19:00		ジビエ料理 食事会	懇親会		ジビエBBQ			
20:00								
21:00								
22:00								

6 モデル事業としての成果検証

6.1 事業成果（目標達成状況）

事業の目標・達成状況

	目標 (定量目標の場合は目標数値も記載)	達成状況
1	オンライン説明会参加者数：200名	349名 達成
2	プログラム参加者数：10名（各地地域5名）	14名 達成
3	継続するプロジェクトの数：1プロジェクト	2プロジェクト進行中 達成
4	参加者満足度：8以上（10段階）	8.1 達成（回答率71%）

6.2 事業成果（関係人口の地域とのかかわり方）

(1) オンライン説明会の実施

- ・熱意ある地方創生ベンチャー連合のYouTubeチャンネルを使い、2回それぞれ実施することができた。
- ・今回の関係人口がターゲットする地域の特性と、地域との関わりしるを、目標以上の参加者に伝えることができた。
- ・鳥獣被害や水産業の課題について、興味を示してくれた企業が多数見つかった。

(2) ワークーション×スキルアップの実施

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により日程の変更や参加者のキャンセルが相次いでしまったが、結果として無事2つの地域にベンチャー企業がワークーションスキルアップを行うことができた。
- ・スキルアップ（免許取得）という目標のため、ある程度費用のかかるワークーションプログラムでも参加者を集めることができた。
- ・当初予定していた地域住民にむけたベンチャー企業とのコミュニケーションを促す取組は、感染対策の観点から実施を見送ることにした。

(3) ワークーション・スキルアップのニーズ調査レポートの作成

今回の現地体験を踏まえて、地方自治体がどのようにワークーションを受け入れることが可能かを、レポートとしてまとめ上げることができた。

6.3 事業成果（その他）

(1) 団体の価値の再発見

○地域特性を活かしたプログラムを楽しみながら、意識せずとも参加者同士の自然なコミュニケーションを促し、普段接する機会の少ないジャンルの話に触れて、そこから起こる化学反応（新たな事業展開等）にも期待できる点

○複数の自治体でワーケーションや地方創生に取り組んでいる実践者が事務局にいて、ただのイベント屋ではなく文脈や文化を理解した上で事業が展開されており、また、他事例も交えたノウハウや人的ネットワーク等を紹介できる点

○コロナを契機として新しい働き方が急速に広がる中で、ワーケーションに限らず地方移住も含めた地方創生が全国で本格的に展開されており、違いを出すのが難しいが、最後は「人」だと考える。『この人がいるから、また来たい』『この人がやっているから、ここにしよう』など。

6.4 本年度の課題と対応

(1) 地域課題への取組

「地域課題を学びつつ楽しめる」というフェーズから「地域課題を参加者の発案やスキルで楽しく解決する」というフェーズに移行できると、WIN-WINで将来性が期待できると考えるが、それを予めアナウンスしてしまうと参加者の負担やストレスになり参加意欲減にもなりかねないので、あくまでも参加者の自由発案による結果となるような進め方が望まれる。

(2) 地域でのワーケーション受け入れ体制の強化

個人的にはアクティビティの充実を重要視したいが、ワーケーションは単なる観光ではなくワークがあって初めて成立するものなので、「仕事として成立するか・利益につながるか」の視点が、特に企業側（経営者側）の視点として重要だと考える。そういった意味で、Wi-Fi環境や会議室などのハードだけでなく、ビジネスマッチングの機会の提供などソフトを含めたワーク環境の充実が一層望まれる。

6.5 今後の事業のあり方

(1) 参加者の地域との継続的な「かかわりしろ」について

参加者と受け入れ地域団体とのオンラインコミュニティが継続して動いている。長島町・多良木町の双方で、イベントの案内やその後の企業での活動報告などがやり取りされている。

長島町では、特定の企業とで具体的なふるさと納税の返礼品の開発やイベントの企画などが生まれてきている。また多良木町では狩猟体験を継続的に運営していく機運が醸成された。

今後としては、当初予定していた「企業版ふるさと納税」や「地域活性化企業人制度」をそれぞれの自治体で導入してもらうように働きかけ、参加団体からの参画を促していくように、当団体から働きかけていく。

7 自立化・自走化の検討

7.1

(1) 受益者負担の取組

今回の長島町のワーケーションでは、移動滞在費と資格取得も含めると参加者の負担は15万円程度となっているが、参加者は多数見つかった。本企画の趣旨と体験を理解してくれた参加者であれば、それ以上の費用負担を伴っても参加をしてくれると思われる。参加費を自走できる負担額にあげることで、地域での受け入れを増やすことを目指す。

(2) 定常的な受け入れ体制の構築

実証のため期間を設けての実施となったが、協力団体との協力があれば、期間を区切ることなく定常的に受け入れが可能になる。またプログラムとして提供すると運営のコストがかさむため、滞在中に参加者がプランを選べるように設計する。スキルアップのプログラムだけを提示しておき、それ以外はいつでも案内できる体制にすることが望ましい。

(3) 観光関連事業者との協業

日本ワーケーション協会・観光事業者などの協力を得て、ワーケーションに伴うオペレーションコストを下げしていく。また、企業やフリーランスの多拠点居住をすすめる取組みをしている団体等との協力の元、受け入れ地域を増やすことで収益化を目指す。

8 他地域への横展開の可能性の検討

8.1

本年度の取組を踏まえて、以下の地域での展開を検討している。

(1) 多様なスキルアップに対応

当団体としては、今回の「スキルアップ」という設計が、企業の経営層への理解を得ることができると思い、他地域での展開を検討している。またスキルアップについては、地域特性を生かしたものであれば民間資格も含めて選択肢は多くあり、その方向性を検討している。（温泉ソムリエ・ドローン操縦民間資格など）

(2) テレワーク事業の可能性

今回の参加企業の中では、オフィスを縮小もしくは、全面テレワークにしているところも複数見られた。そのなかで、ベンチャー企業が地域での採用を進めたり、地域にしながら都市部の仕事をしたりすることも可能になっている実態も明らかになった。企業の採用活動と地域のテレワーク推進の両方の側面から、企業のワーケーションの受け入れを進めていく可能性があると考えている。

(3) 具体的な地域への提案

① 山形県山形市

山形市は、健康医療先進都市として取組が注目されている。山形大学において世界に誇れる次世代型重粒子線がん治療装置の整備が進められているほか、市立病院済生館をはじめとする総合病院が数多く立地し、人口一人当たりの診療所数が東北主要都市内で最も多いなど、他都市と比して「医療」に強みを持っている状況にある。そこで、医療系企業およびベンチャー企業のワーケーションの受け入れを本事業モデルで検討を進めている。蔵王温泉を中心としたリラクゼーション施設でのリトリートと、温泉ソムリエ・サウナシュランといった民間資格の取得を期間中に取得するというものである。

② 福島県磐梯町

企業との協働を率先して取り組んでいる福島県磐梯町に、2021年11月4日5日にスタディーツアーという形で訪問した。磐梯町では、町が保有する遊休施設をLiving Anywhere Commonsという民間団体に運営してもらい、企業との協働を進めている。冬場のスキーシーズンではなく夏場への来訪を進めたい町で、地域性を生かしたスキルアップ講座の設計を現在計画している。